

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730469

研究課題名(和文) 地域を起点とした移動と定着の現代的諸相に関する研究

研究課題名(英文) Study on Contemporary Various Phase of Transmigration and Settlement in the light of Locality

研究代表者

五十嵐 泰正 (IGARASHI, Yasumasa)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：80451673

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：社会学を中心に関連諸分野における理論蓄積を検討しつつ、実証分析を重視して研究を進めた。具体的には、台東区上野の商店街という非常に流動性の高い地区における、ニューカマー外国人を含めたコミュニティ形成の研究を中心に、中国・大連や富山県などでの調査を行った。

一方、研究期間直前に起こった東日本大震災で、もう一つの主要な調査事例地と位置付けていた千葉県柏市は、放射能のホットスポットという予想外の災禍に見舞われた。その中で、市民の地産農産物への忌避行動の研究は、現代的な移動と定着を考える上で格好のテーマであり、柏市民と農業者の協働的な問題解決に実践的に取り組み、福島県の関係者とも積極的な研究交流を行った。

研究成果の概要(英文)：With survey on preceding theoretical studies in sociology and related fields, I have conducted this research project putting importance on empirical researches. Mainly I have focused on the process of community building with new-comer foreign residents in highly fluid Ueno's commercial area, and also conducted some brief researches at Dalian, China and Toyama Pref.

On the other hand, Kashiwa, Chiba which I had assumed as another main research field in this research program was suffering from radioactive disaster as a "hot spot". In this unpredictable circumstance, I evaluated the research on Kashiwan citizen's avoidance for local farming products as an unique and valuable opportunity to consider the transmigration and settlement within the actual situation. Therefore, I have engaged in a project of producer-consumer cooperant solution against radioactivity problems in local agriculture as an action research, and made academic and practical contact with the researchers in Fukushima Pref.

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学、社会学

キーワード：国際移動 コミュニティ 都市 農業復興

1. 研究開始当初の背景

現在の日本の地方では、グローバル化の潮流から取り残され、移動と社会上昇への意欲を失い「地元」に滞留する若者たちと、排除される対象であると同時にグローバルな流動性の高まりに対応して生きようとする移民・外国人労働者という、非常に性格が異なり、潜在的にはねじれた対立点を抱える人々が居住して否応なく空間を共有し、消費生活や労働の現場において接点を持つようになっている。しかも、少子高齢化が進行し、空洞化が目立つ日本の地方都市や郊外都市で、地域コミュニティや産業の再生を、このような人々がともに担っていかざるを得ない状況にある。

これまで若者文化論や階層論の観点から捉えられていた「ジモト現象」と、エスニシティ研究やグローバル化論で扱われてきた移民・外国人労働者の問題を、具体的な地域コミュニティを分析の起点とすることで、同一地平線上の問題として接続して都市(地域)社会学的なコミュニティ形成論として描き出し、移動すること/しない(できない)こと、地域に定着してゆくこと/しないことの現代的な意味を、理論的かつ実証的に考察していくことが必要と思われた。

2. 研究の目的

グローバルな流動性を増す現代社会において必要とされている、異質な他者に関わりながら地域への愛着を醸成するというコミュニティ形成のあり方はいかにして可能なものか。移動する人々にとっての「地域」というリアリティを理論的かつ実践的に探求しつつ、実際には「地域」を共有して暮らしている国際移動をする人々と、「地元」に滞留する若者たちとを、同一線上のコミュニティ形成論として比較検討することで、移動すること/しない(できない)こと、地域に定着してゆくこと/しない(できない)ことの現代的な意味を、理論的に考察することを当初の目的としていた。

しかし、「地元」に滞留する若者たちのコミュニティ形成を調査する重要なフィールドとして想定していた千葉県柏市が、研究開始直前の福島第一原発事故により、放射能のホットスポットとなるという予想外の事態が発生した。そうした中で、流動性の高い住宅地であると同時に有力な近郊農業地帯でもある柏市において、ジグムント・バウマンが言うところの「土地に縛り付けられた者」である農業生産者と、消費という行為において「旅行者」という側面を持つ市民との間には、モビリティの大きな違いを背景とした地産農産物をめぐる意識の乖離が発生し、コミ

ュニティの分断とも言える状況が現出した。もともとアクチュアルな社会状況の中で、実証的に研究を進めることを企図していた本研究にとって、市内のさまざまなステークホルダーの地産農産物への忌避意識(避難という行動はとらないまでも、食物という身体の一部を「移動」させることを意味する)を起点に、「移動」と「定着」の現代的意義を探求していくことは実践的にも非常に有意義と思われ、研究対象を大きく変えつつ研究関心はより深化させた形で、本研究プロジェクトを遂行した。

3. 研究の方法

初年度・二年目は、非常に高い流動性を抱える一方で「下町」としての強い地域アイデンティティのある、台東区・上野地区の商店街において、ニューカマー外国人の店主を含みこんだ形でのコミュニティ形成のあり方に関する実証研究を中心とした。具体的には、上野2丁目商店街・アメ横商店街での店主や商店会関係者を対象とした聞き取り調査、およびアメ横表通り商店会と調査企画から協働する形での顧客向けの質問紙調査(インターネット委託調査)を行った。また、これらの上野における調査の重要な参照点とする目的で、震災後に大きな変動のあった富山県のパキスタン人コミュニティや、中国・大連の現地採用日本人のコミュニティの調査などを行った。

また、千葉県柏市においては、消費者・生産者・流通業者・飲食店が協働して地産農産物における放射能問題の解決を図る「安全・安心の柏産柏消」円卓会議の立ち上げ・運営に積極的にコミットし、一種のアクションリサーチといった形で、消費者と生産者の地産農産物をめぐる意識の乖離を切り口に、郊外都市における「移動/定住」意識の問題を考察した。3年目にあたる平成25年度においては、柏市における研究の発展として、被災地、特に福島県内における研究報告を積極的にに行い、幅広い分野の専門家や一次産業関係者と研究交流・意見交換を行った。

4. 研究成果

上野における研究では、上野2丁目商店街における聞き取り調査から、これまでの都市社会学の先行研究では批判的に捉えられる傾向の強かった「セキュリティ意識」こそが、流動性の高い繁華街において、ニューカマー外国人も含めたコミュニティ形成の数少ない契機となりうることを示し、「多文化都市におけるセキュリティとコミュニティ形成」(『社会学評論』)として発表した。

柏における研究では、アクションリサーチとして行った、「安全・安心の柏産柏消」円

卓会議での消費者 - 生産者の協働による放射能測定体制の構築の記録を、『みんなで決めた安心のかたち ポスト 3.11 の地産地消をさがした柏の1年』(亜紀書房)として発表した。この実践経験を通じて、消費者側のリスク回避のオーバーフローと言えるいわゆる「風評」被害の根幹に、消費者と生産者のモビリティに関する感覚の大きな乖離があること、その溝は、「共有している地域への愛着」を出発点にした協働的な関係性の構築により克服可能であることを示し、福島県内外で活動するリスク研究、農学ほかの幅広い専門家および農業・漁業・水産加工業などの当事者に、重要な先行事例として強い関心を持って受け止められた。

研究成果報告としては、上記に特記したもの以外にも、下記のとおり形で報告・公表を行っている。ここに記載しているもの他にも、上野での研究・柏での研究ともに、当事者へのフィードバックを最大限重要視し、多数の学外向けのレクチャーやシンポジウム参加を行っている。特に、柏での消費者と生産者の意識の壁や、それを乗り越えた協働をめぐる一連の研究は、社会的にも多くの反響を呼び、新聞各紙、テレビ番組、ラジオ番組、一般誌、ウェブ記事、農業紙等にも多数取り上げられ、研究代表者はメディア出演や寄稿、インタビュー対応やコメント提供などの形でそれらにできる限り応じ、積極的なアウトリーチ活動を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

五十嵐泰正、「書評：岸政彦著『同化と他者化』」、『日本都市社会学会年報』、査読なし、32号、2014、掲載確定。

五十嵐泰正、「高度外国人材とは誰か」、『POSSE』、査読なし、20号、2013、NPO法人POSSE、95 - 100。

五十嵐泰正、町村敬志、「新都政が超えるべきは「石原」ではない」、『POSSE』、査読なし、17号、2012、NPO法人POSSE、15 - 31。

五十嵐泰正、「地産地消のためのセカンドオピニオン」、『SYNODOS JOURNAL』、査読なし、2011、<http://synodos.livedoor.biz/archives/2006499.html>

五十嵐泰正、「「My 農家を作ろう」方式の放射能測定がもたらしたもの」、『SYNODOS JOURNAL』、査読なし、2011、<http://synodos.livedoor.biz/archives/2001647.html>

五十嵐泰正、「多文化都市におけるセキュリティとコミュニティ形成」、『社会学評

論』、査読あり、62(4)、2012、521 - 545。
五十嵐泰正、「「土地に縛り付けられている人々」と「旅行者」 震災があら

わにした^{モビリティ}可動性という分断線」、『移民・ディアスポラ研究 東日本大震災と外国人』、査読なし、第2号、2012、明石書店、75 - 86。

五十嵐泰正、「安易な「労働開国」では低生産性から抜け出せない」、『週刊エコノミスト』、査読なし、4月19日特大号、2011、毎日新聞社、50 - 53。

〔学会発表〕(計12件)

IGARASHI, Yasumasa、"Is it Possible to overcome social gap through coproduction?", ISA World Congress of Sociology, パシフィコ横浜、14th, Jul. 2014、発表確定。

五十嵐泰正、「社会的分断を前にした協働とマーケティング」、リスク評価研究会 (FoRAM)、東京大学、2013年8月5日。

五十嵐泰正、「「ディアスポラ」概念の現代日本における実践的な再定位のために」、『大会シンポジウム』、日本移民学会第23回年次大会、武蔵大学、2013年6月29日。

五十嵐泰正、「「分断を越える協働」はいかにして可能なか—「安全・安心の柏産柏消」円卓会議の経験から」、『テーマ部会A』、関東社会学会第61回大会、一橋大学、2013年6月16日。

五十嵐泰正、「柏でできたこと、できなかったこと」、『復興アリーナ・シンポジウム「安全・安心」を超える<価値>とはなにか - 危機を転機に変えるために』、SYNODOS / Web Ronza、福島グリーンパレス、2013年3月31日。

五十嵐泰正、「不確実なリスクを前にした協働の役割—「安全・安心の柏産柏消」円卓会議の事例から」、地域社会学会第4回研究例会、東京大学、2013年2月2日。

五十嵐泰正、「犯罪・災害を前にした可動性(モビリティ)という分断線」、『テーマ部会 犯罪・災害リスクとコミュニティ』、日本都市社会学会第29回大会、新潟大学、2011年9月9日。

〔図書〕(計3件)

五十嵐泰正、平野健一郎ほか編、東京大学出版会、「文化の商品化としての国際観光」、『国際文化関係史研究』、2013、255 - 275、全554ページ。

五十嵐泰正、吉原和男ほか編、丸善出版、「ニューカマーとオールドカマーのせめぎあい」、『人の移動事典』、2013、304 - 305、全512ページ。

五十嵐泰正、「安全・安心の柏産柏消」円

卓会議、亜紀書房、『みんなで決めた「安心」のかたち ポスト 3.11 の地産地消をさがした柏の 1 年』、2012、全 260 ページ。

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

五十嵐 泰正 (IGARASHI, Yasumasa)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：80451673